

日本社会情報学会ニュース

第 1 4 号 2003 . 4.25

2003 年度第 8 回研究大会開催のお知らせ

2003 年度第 8 回研究大会・自由報告部会の報告者募集

2003 年度第 8 回研究大会・ワークショップ企画案の募集

学会誌掲載論文の原稿募集について

監事の交替ならびに研究委員会・編集委員会委員の追加について

研究会活動について

会費納入のお願い

事務局から

2003 年度・第 8 回研究大会開催のお知らせ

2003 年度の第 8 回研究大会は、昨年の第 7 回大会（於群馬大学）総会におきまして、九州の熊本学園大学にてお引き受けいただく旨お知らせいたしましたが、このほど、その日程が最終的に決まりました。会員の皆様、今秋の予定のひとつに入れていただきますようお願いいたします。

日程：2003 年 10 月 18 日（土） 19 日（日）

開催校：熊本学園大学

住所 〒862-8680 熊本県熊本市大江 2 丁目 5 番 1 号

電話 096 - 364-5161（代）

大会運営委員長 大野哲夫（熊本学園大学商学部）

企画委員会委員長 田崎篤郎（立正大学文学部）

第 8 回研究大会をお引き受けするにあたってのご挨拶

第 8 回大会運営委員長 大野 哲 夫

陽春の候、学会員の皆様方にはいよいよご清祥のこととお喜び申し上げます。このたび第 8 回日本社会情報学会研究大会を私どもの熊本学園大学でお引き受けし、10月18日（土）、19日（日）の両日に開催することになりました。

熊本市内の便利な場所に位置している熊本学園大学は、創立して今年で 61 年を迎え、地域社会に深く根ざした大学としての長い伝統をもっています。現在、商学部第一部・第二部、経済学部、外国語学部、社会福祉学部第一部・第二部と、5つの大学院修士課程、

ならびに、2つの博士課程を有し、学生数約7千名強の、地域に開かれた大学として成長してまいりました。

しかしながら、社会情報学を冠する学部は持っておらず、しかも日本社会情報学会の会員はわずか2名という現状であります。そのため、本学会の研究大会開催には当初は躊躇いたしましたが、今後の社会情報学ならびに本学会の発展に一會員の立場から微力でも寄与したいとの思いから大会開催をお引き受けすることにいたしました。このため、本学会の役員の方々はもとより多くの會員の皆様のご理解、ご支援を仰がなければなりません。今後の準備等では、皆様方のご協力やご支援を心からお願いいたします。

豊かな湧水と緑の城下町・熊本は近くに噴煙をあげる雄大な阿蘇とキリシタンの哀史を秘めた輝く海をもつ天草もあり、また晩年の武蔵が思索した場所でもあります。多くの皆様の大会へのご参加をお待ちしています。

第8回研究大会 自由報告部会の報告者募集

第8回研究大会の日程が決まりましたので、早速、自由報告部会の報告者を募集します。自由報告部会は10月18日午前・午後と、19日午前に開催される予定です。報告を希望される方は、下記の留意事項をお読みになってお申し込みください。テーマ部会（ワークショップ）の報告者については、企画案の詳細が決まり次第、改めて募集いたします。

応募にあたっての留意事項

自由報告をお申し込みになる方は、以下の事項を明記の上、郵送ないしメールのいずれかでお申し込みください。

- ・氏名
- ・所属
- ・報告タイトル
- ・連絡先住所、電話、メールアドレス

報告時間は1報告につき30分（簡単な質疑を含む）を予定しております。（部会編成の都合により、発表時間の調整をお願いする場合がありますので、あらかじめご承知おきください。）

報告の日程の指定には応じかねますので、ご了承ください。

応募締め切りは、2003年7月31日とさせていただきます。なお、報告要旨原稿の提出締め切りは、8月31日とし、この報告要旨原稿の提出をもって、最終的なエントリーとさせていただきます。

以上の留意事項をご理解いただき、必要事項をもれなくA4版の用紙に記入し、郵送ないしメールにてお送りください。

発表申し込み書の送り先

〒862 - 8680 熊本県熊本市大江2丁目5番1号
熊本学園大学商学部大野哲夫研究室内
日本社会情報学会大会運営委員会 宛て
電子メール宛先 t-oono@kumagaku.ac.jp
電話 096-364-8274

第 8 回研究大会 ワークショップ企画案の募集

以下の要領で、第 8 回研究大会・ワークショップの企画を募集します。積極的なご応募をお願いします。

- ・コーディネーターの氏名、所属
- ・報告者の氏名、所属
- ・コメンテーターの氏名、所属
- ・タイトル
- ・ワークショップの趣旨
- ・代表者の連絡先住所、電話、メールアドレス

応募締め切りは、7月31日とさせていただきます。

ご提案いただいた企画案の採否については、企画委員会の検討によることとします。

また、採択された場合も一部変更する場合があります。

企画案の送り先

〒141-8602 品川区大崎4-2-16
立正大学文学部田崎篤郎研究室内
日本社会情報学会大会企画委員会 宛て
電子メール宛先 QWP00260@nifty.ne.jp
電話 03-5487-3305

2003 年度・学会誌『社会情報学研究』の原稿募集

学会誌『社会情報学研究』は、今年度から、年 2 回(9月、3月)の発行になりました。あわせて内容の充実もはかかります、奮ってご投稿ください。8 巻 1 号、2 号の原稿〳切、原稿の送り先は下記のとおりです。(「社会情報学研究」編集委員会委員長 音好宏)

8 巻 1 号(9 月刊)：今年度に限り、投稿申込〳切 4 月末、原稿〳切 5 月末
〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町 京都大学大学院人間・環境学研究科
「社会情報学研究」編集委員会 吉田 純 宛

8 巻 2 号(3 月刊)：これまでどおり、投稿申込〳切 9 月末、原稿〳切 10 月末
〒305-8550 つくば市春日 1-2 筑波大学図書館情報学系
「社会情報学研究」編集委員会 後藤 嘉宏 宛

なお、詳細は学会 Web ページ(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis>)の投稿要領、論文原稿執筆の手引きをご覧ください。

監事の交替ならびに研究委員会委員・編集委員会委員の追加について

監事の交替について

去る 3 月 8 日の第 27 回理事会にて、中村喜美郎監事から出されていた辞任願について

審議され、その結果これを承認し、新たに吉井博明会員（東京経済大学）に監事を委嘱する旨承認されました。吉井監事の任期は、中村前監事の残る任期（2004年3月末）となります。

研究委員会委員の追加

第25回理事会にて、未定にしておりました関東地区の研究委員会委員として、原裕之会員（明治学院大学）に委嘱する旨了承されました。

編集委員会委員の追加

第24回理事会にて、地域的・性的なバランスを鑑みて、松田美佐会員（中央大学）、劉雪雁会員（東大社会情報研究所）の両名を、新たに委嘱する旨了承されました。

研究会活動について

最近の各地区における研究会活動についてご紹介します。今回は、東北地区、関東地区の状況です。

東北地区研究会活動の報告

東北地区では、去る7月4日、以下のようなプログラムで開催されました。

日時：平成14年7月25日（木）15時～17:00

場所：東北大学

報告者：伊藤守（早稲田大学 教育学部教授）

コメンテータ：正村俊之（東北大学 文学研究科教授）

司会：柴田邦臣（東北大学文学研究科博士課程）

出席者：約10名

現在、社会学、歴史学、文学、文化研究、国際政治経済学、地理学といった領域を横断するかたちで表象の権力性をめぐる諸問題が盛んに論じられているが、こうした状況をふまえて、東北地区研究会では、伊藤守氏に「凡庸なるがゆえの政治性：集合的記憶の編成とメディアの言語実践」と題して、テレビジョンとそれを取り巻く社会的コンテクストの問題に関する報告をしていただいた。テレビのコンテンツを具体的に分析しながら、メディアとその政治性を記憶の観点から考察したその報告は、情報の選択という権力のありかたを指摘した、刺激に満ちたものであった。続いて正村氏から、伊藤会員の報告をふまえて、文化を経由しない権力と文化を経由する権力、そしてカルチュラル・スタディーズと構造主義との関係についてのコメントがなされた。

以上を受けてフロアからも活発な意見が出された。現在のメディア研究が、表象された現象の整理に終始し、社会構造まで十分踏み込めていないのではないかといった意見、オーディエンスの「読みの多様性」と「選択させられてしまう読み」の双方にある背景をどう考えるのかといった問題、また、文化とメディアの関係を特定の領域に焦点をあてて精緻に整理していく必要性等、が提示され、充実した議論が展開された。

会員数が十分でなかったとはいえ、社会情報学に関連する会員がこのように集まって議論できる場は貴重であると思われる。今後も仙台地方でメディアに関する研究会を積極的に展開していく予定である。

（文責 柴田・正村）

関東地区研究会活動の報告

日時：平成 15 年 3 月 29 日（土）

場所：明治学院大学

講師：大石裕氏（慶應義塾大学法学部教授）

講師：吉原直樹氏（東北大学大学院文学研究科教授）

司会：正村俊之

研究委員：伊藤守、原宏之

今回の研究会は「情報化時代の都市」をテーマとし、政治コミュニケーション（政策・行政のプロセス）の角度から大石講師、都市社会学（ポスト近代化・情報化の都市）の角度から吉原講師の二名を招いて、活発な議論が展開された。大石氏の報告は「地域情報化」をめぐる同氏の十年來の研究成果の集大成として、「地域情報化」が中央の《政治シンボル》としてのみ機能してきており、地方行政を見ながら具体的な「政策達成」の評価を考えなければならないとの提案が出された。吉原氏の報告は東南アジアを背景とした同氏の都市・実地研究を背景に、より大きな理論的背景を論じるものであり、西欧近代史における労働規範（クロック・タイム）による生活時間の浸食から、都市の情報化による「超時的な時間」の機制に向けられたポストモダン論が展開された。最後にWWWに象徴される多重決定的なガヴァナンスのモデルについて議論が交わされた。（文責・原）

会費納入のお願い

新しい年度を迎えましたが、早速、2003 年度会費の納入を御願い致します。お手数ですが、同封の振込用紙にて郵便局にてお振り込みいただければ幸いです。また、前年度以前の会費についても未納の方は、至急、お納めいただきますようお願い致します。なお、本学会には、銀行口座からの自動引き落としの制度がありますが、この制度の活用を希望される会員は事務局にご請求いただければ手続き用の書類を送らせていただきます。今年度の会費は 4 月末に引き落とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

事務局から

前号からしばらく時間が空いてしまいましたが、新年度の会報をお届けします。本号は、この 10 月開催予定の第 8 回研究大会に関するニュースを載せております。従来、本学会では、開催校の編集による「大会ニュース」を「会報」とは別に発行してきましたが、事務的な簡略化を図るために、今後は、「会報」とともにお知らせすることにしたいと存じます。次号では、ワークショップの内容についてお知らせする予定ですが、その企画案についていろいろアイデアをお寄せいただきたく、ご協力のほどを重ねてお願いいたします。

日本社会情報学会事務局 〒206-8540 東京都多摩市唐木田 2 丁目 7 番地 1 号

大妻女子大学社会情報学部内

TEL: 042-339-0056・0071・0036 FAX: 042-339-0044・0056

e-mail: s-info@otsuma.ac.jp URL: <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsis/index.html>